

レジャー・スポーツの実施環境に対する評価、参加者満足及び行動意図の関連性に関する
研究—SUP（スタンドアップパドルボード）を題材として—

○平野貴也（名桜大学） 合志明倫（東海大学） 宮崎景（アクアティック）

キーワード：SUP、実施環境、参加者満足、行動意図

レジャー・スポーツが国内に普及した時期や場所は、種目によって様々である。普及には用具の供給状況、競技団体の活動、活動場所や活動機会、愛好者の状況や社会的背景などのレジャー・スポーツを取り巻く実施環境が影響を及ぼしている。本研究は近年、実施者が増加しているSUPを題材に、まずSUPへの参加者が用具の供給や活動場所などの現在の実施環境をどのように評価しているのかを明らかにする。そして実施環境に対する評価、活動満足度、推奨意図及び継続意図の関連性を明確にすることを目的とした。その結果、実施環境に対する評価は継続環境因子、導入環境因子の2因子で構成されていること、実施環境に対する評価が活動の満足度に強い影響を及ぼしているがわかった。その中で用具の価格を抑え、耐久性を高めることや技術向上につながる練習法や指導法を確立することが、さらなるSUPの普及につながるものと推測された。また参加者の活動満足度が推奨意図及び継続意図に影響を及ぼしていることが明らかになった。

登山道における所要時間に関する基礎的研究

—GPS および SNS のビッグデータを活用した実態の把握を試みる—

○中村 哲郎〔東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 自然環境保全学研究室〕、

栗田 和弥〔東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科〕

自然公園におけるレクリエーション活動あるいは環境学習などの行動をする時には、利用者としてはそこで費やす時間の長短が行動そのものを左右することが考えられる。そのため、特に登山のような行動の条件が限られる場合には、コースタイムと呼ばれる標準的な所要時間をその登山口で示していたり、ガイドブックに記載されていたりする数値を参考にして計画を立案することが多い。ところがコースタイムは地域の観光協会や山岳会が独自に決定している場合が多く、どれほど正確かどうかについて、検証した研究は見当たらない。

そこで本研究では、近年発展してきたソーシャルネットワークシステム（SNS）の一つである、登山記録の公開サイト「ヤマレコ」を活用する。全ての登山者が記録をアップロードしているのではないものの、サンプリング調査と見なした。登山年月日、天候、登山口の場所、登山開始時刻、経由するルート、山頂到着時刻、下山開始時刻、下山口到着時刻その他の情報を使い、平均値などを算出し、一般的に表示されているコースタイムと比較を行なった。研究の限界として、記録をアップロードする群とアップロードしない群とに分けた場合の比較ができないという課題が見出されたが、一定の意味を持つデータが得られた。